

植物を育てよう

3年	個別に種まきと栽培 花壇が狭い場合はこの方法で！
	「種まきをしよう」 セルトレイを使って オクラやヒマワリのような大きな種子は利用できません。

子どもの生活空間から離れた場所に花壇がある場合や、花壇に十分な広さがない場合には、セルトレイを使ったベランダでの栽培が有効です。ベランダに置くことで毎日の観察が可能となり、発芽～子葉が開く～葉が展開するまでの様子をしっかりと観察することができます。また、一人ずつの栽培を行うことで学習意欲が継続します。

1 準備

種子（ヒヤクニチソウ，ハウセンカなど2種類以上のものを1人に2つずつ）+ 予備
セルトレイ（種まきの数だけ切断したもの）人数分+ 予備
播種用土（プラグトレイ用と記載されているもの），シャベル，竹串，

2 種まきの方法について（写真は3種類の種子を播くためのものです）

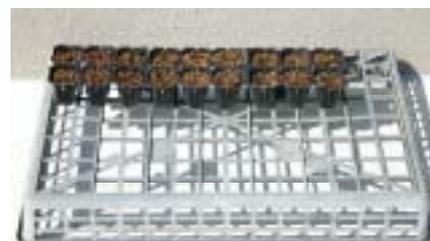
- (1) 播種用土をセルトレイに多めに入れ，軽く平らにならす。
- (2) セルトレイを軽くトントンと地面をたたくようにして土を落ちつかせる。
- (3) 目の細かいジョロで灌水する。
- (4) 竹串などでセルの中央に穴をあける。
（穴の深さは種子の大きさの2倍程度）
- (5) 一つの穴に種子を一つ入れ，竹串などで穴を埋める。
- (6) どこに何を種まきしたか記録する。
- (7) 目の細かいジョロで十分に灌水する。



3 播種後の管理について

ゆっくりと変化する植物の発芽（地上部の変化）を観察するために，できるだけ子どもの身近なところに置き，1日数回観察することができるようにしたい。教室の環境にもよるが，直射日光の当たるベランダが最も管理しやすい。

- ・土が乾燥することがないように注意する。
- ・水をまく時は，目の細かいジョロで土の表面が踊らないように注意し，底から水が出てくるまで十分に与える。
- ・ベランダのコンクリートは熱くなるため，苗ケースを逆さまにした上に置くとよい。（右写真）



種まきは計画的に

発芽から子葉が展開するところはぜひ観察させたいところです。種まきをしてから発芽するまでの日数（4月～5月上旬であると発芽までの日数は3日～7日程度）を考え，木・金曜日に種まきをして翌週観察する方法もあります。また，5月はゴールデンウィークがあるため，計画的に種まきをする必要があります。

セルトレイについて

農業用資材を置いている商店で購入できます。いろいろな材質のがありますが、堅くてしっかりしたものを選びます。穴の大きさもいろいろですが、管理のしやすさから72穴のものが使いやすいでしょう。

実際に使う場合には、これを万能バサミで2×2の大きさに切断しておきます。(2種類の場合)

しっかりした材質のものであれば、何年間か続けて使用することができます。

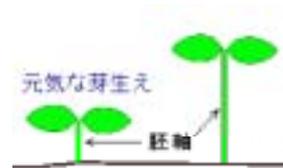


キャベツの芽生え

モンシロチョウ餌用のキャベツの苗を作るために種まきしたもの。これが72穴のセルトレイ。

芽生えの豆知識

発芽直後の植物体は光に敏感に反応し、光のくる方向へ曲がるうとしたり、光が弱いと「もやし」のように細長く伸びてしまいます。また、温度が高いと植物体の伸長が速く、「弱い光・高い気温」という教室のような環境下では、細長い芽生えになってしまいます。



芽生えの茎の部分を胚軸といい、胚軸が長いと風の影響を受けやすく、植物体がぐらぐらして根張りも悪くなり、その後の成長に影響を与えてしまいます。

芽生えからの成長初期には、しっかりと光に当て、ずんぐりとした丈の短い植物体に育てたいものです。

オクラについて

オクラは高い気温でよく育つ種類なので、4月下旬や5月上旬に種まきをしても発芽までに日数がかかります。また、その後の成長も気温が高くなるまではゆっくりなので、ハウセンカとオクラを比べながら観察するときには、成長の速さの違いなどに気付かせるのも一つの視点です。



オクラの芽生え



あんな失敗，こんな失敗

ハウセンカやヒャクニチソウは発芽するために光を必要としないので、種まき後教室のロッカーの上に置いて観察させていました。月曜日、教室へ入ると「やったー。芽が出た！」と喜びの声。「僕のは5cmもある！」の声にびっくりして見てみると、そこには細長い芽生えが・・・その後、丈夫に育てるのには苦労しました。